

# 領土とナショナリズム

## 論 耕

一橋大准教授

クオン・ヨンソクさん



麻生雄英氏

### 国の枠を超えた「ルーズな海」に

尖閣諸島も竹島も日韓の大半の人にとって、行ったことのない遠くの島だ。その島を巡って熱くなるのはなぜか。領土や国境をどう考えるべきか。「保守」を自任する日本人研究者と、「境界人」として生きる韓国人が研究者、闘った。

領土問題といっても、韓国における「独島」と日本における「竹島」は問題のレベルが違います。韓国には強い自己認識があります。「朝鮮半島は900回以上、侵略を受けた」「だが自分たちは侵略を受けていない」というもの

です。史実はともかく、国民的な物語として共有しています。大陸からも海洋からも侵略され、抵抗を繰り返す中で、「自分たちの領土」の意識が強くなりました。韓国のナショナリズムの源泉です。現在の私たちが「国家」と呼ぶ

存在が領土を画定するのは、近代に入ってからです。でも韓国に関しては、そのはるか前から、近代的な領土意識が育っていたといえます。例えば豊臣秀吉が16世紀末に朝鮮を侵略した際、朝鮮側は正規軍が苦戦するなか、民衆や下層の僧侶たちが義兵として戦った。あの時代に近代ナショナリズム的な行動があったのは驚きです。

日本のワイドショーは韓国の独島教育や島への思いを「なぜここまで？」と奇異な目で報じています。70年ソウル生まれ。韓国と日本で育ち、東アジア国際関係学。著書に「岸政権理のメソッド外交」「潮流」と「回流」など。

#### 問題意識にずれ

先月20日、日本の参議院が韓国に抗議決議をしましたが、この日は1910年の韓国併合条約の公布・発効の日です。韓国では「国の恥の日」と呼んでいます。韓国にとっては、「植民地支配の象徴だ」と言っているのになぜ日本が領有にこだわるのか、理解できないでしょう。

韓国紙が「日本は100年前と変わっていないのでは」と報じたように歴史の逆戻りにも見える「植民地支配を反省していないのか」と疑うかもしれません。韓国にとつて「独島」は領土問題ではなく歴史問題と言われるのはこうした意識があるからです。

一方、私はどうも考えます。日中の尖閣諸島の問題も含め、これは東アジアの海の、本来の姿ではないだろうと。近代西洋で生まれた国際法は、線を引いて排他的な領土や領海を規定します。このゼロサム論理が帝国主義や戦争の原因にもなりました。でもかつての東アジアの海は、はるかにルーズでした。どこから「こちち」でどこから「あちち」なのか、入り乱れた中で交易があり、文化が開いた。侵略しないかぎり境界は寛容で、多様性を認めていた。様々な地域の文化が混交した国際色豊かな日本の奈良時代は、その典型です。

#### 良識劣化の兆し

韓国にも提案したい。歴史問題は常に、日本という国に突きつけるナショナルな問題でした。ナショナルな枠組みは重要ですが、その枠組みのみで批判を続けたり、逆に日本のナショナルリズムを育ててしまう可能性が高い。韓国が最も恐れる、日本の右傾化や歴史の否定、軍事大国化を生むかもしれません。

日本も韓国も民主主義国ですが、この夏の喧嘩は、双方のデモクラシーと良識が劣化している兆候に見えました。東アジアの将来のために、両国の知的な連帯や市民的なネットワークの再構築が望まれます。

聞き手はいずみも 編集委員・刀祿正樹